

■ 資料

## 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2015)

坂中正義

(南山大学人文学部心理人間学科)

### 要約

本論文は、2015年に発表された、わが国におけるパーソンセンタード・アプローチ関連の文献リストである。文献は、非指示的カウンセリング、来談者中心療法、パーソンセンタード・セラピー、パーソンセンタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、積極的傾聴法等に関するものである。収録は「来談者中心療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「体験過程療法・フォーカシング」「その他」ごとに、A. 書籍、B. 研究論文、C. 学会発表、D. 翻訳、E. 海外文献紹介、F. 書評のジャンルに分けて行っている。

キーワード：来談者中心療法、パーソンセンタード・セラピー、パーソンセンタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、文献リスト

### はじめに

筆者は、わが国におけるパーソンセンタード・アプローチの研究および実践を振り返り、今後の発展のための課題探索の1つの手がかりを提供するため、次のような文献リストを作成した。

1. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト ―ロジャース選書及び全集― 九州大学心理臨床研究, 17, 113-121.
2. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に

- 関する文献リスト（～1969） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 2, 9-31.
3. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1970～1974） 福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 81-88.
  4. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1975～1979） 福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 89-98.
  5. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1980～1984） 福岡教育大学紀要（教職科編）, 48, 195-214.
  6. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1985～1989） 福岡教育大学「教育実践研究」, 7, 115-132.
  7. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1990～1994） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 3, 13-51.
  8. 坂中正義 2000 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1995～1999） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 4, 13-55.
  9. 坂中正義 2001 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2000） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 5, 23-56.
  10. 坂中正義 2002 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2001）—第Ⅰ部：来談者中心療法— 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 51-68.
  11. 坂中正義 2002 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2001）—第Ⅱ部：ベーシック・エンカウンター・グループ、第Ⅲ部：体験過程療法・フォーカシング、第Ⅳ部：その他— 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 69-85.
  12. 坂中正義 2003 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2002） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 7, 1-22.
  13. 坂中正義 2004 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2003） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 8, 31-50.
  14. 坂中正義 2005 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2004） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 9, 17-36.
  15. 坂中正義 2006 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2005） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 10, 1-24.
  16. 坂中正義 2007 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2006） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 11, 1-20.
  17. 坂中正義 2008 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2007） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 12, 1-24.
  18. 坂中正義 2009 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2008） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 13, 9-29.
  19. 坂中正義 2010 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2009） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 14, 27-50.

20. 坂中正義 2011 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2010) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 15, 29-50.
21. 坂中正義 2012 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2011) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 16, 1-20.
22. 坂中正義 2013 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2012) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 17, 1-23.
23. 坂中正義 2014 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2013) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 13, 231-255.
24. 坂中正義 2015 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2014) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 14, 231-255.

本論文では、これらの論文の続編として、2015年の日本におけるパーソンセンタード・アプローチ関連の文献リストを作成する。また、これまでのリストに漏れていたものを追録する。

## 方法

2015年に発行されたパーソンセンタード・アプローチ関連の以下のようなキーワードが論じられている文献が収集された。

非指示的カウンセリング、来談者中心療法、パーソンセンタード・セラピー、パーソン・センタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、積極的傾聴法、人間中心の教育等。

分類方法は、文献を「来談者中心療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「体験過程療法・フォーカシング」「その他」の4部に分類し、それぞれ、A. 書籍、B. 研究論文<sup>1</sup>、C. 学会発表、D. 翻訳、E. 海外文献紹介、F. 書評に分けて収録した。さらに、各部ごとに2015年の動向や代表的な文献を紹介した。

文献は、できるだけ手広く収集を努めたが、不備も予想される。それらについては、指摘をまって、今後の文献リストシリーズの中で、訂正、追加、補足したい。

## 第 I 部：来談者中心療法

「第 I 部：来談者中心療法」には関連文献のうち、来談者中心療法、来談者中心遊戯療法、パーソンセンタード・セラピーといった個人カウンセリングや「自己一致」「共感的理解」「無条件の積極的関心」「アクティブリスニング」な

---

<sup>1</sup> 研究論文には便宜上、ニューズレター等も含めている。

どの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した。

2015年の概要は次のとおりである。「A. 書籍」は5本で、そのうち4つが単行本であった。「B. 研究論文」は44本で、そのうち4つが特集であった。「C. 学会発表」は7本で、そのうち2つがシンポジウムであった。「D. 翻訳」は1本であった。「E. 海外文献紹介」は6本であった。「F. 書評」はなかった。

2015年の「来談者中心療法」の特徴は、Rogersの中核3条件についての書籍（A-1, A-3, A-5）や、以前より定評のある書籍の全訂版であるA-2が刊行されたこと、及び、E-1からE-6までのこの領域の基本概念について論じた代表的な海外論文の紹介がなされたであろう。

A-1, A-3, A-5は中核三条件のシリーズであり、順に無条件の積極的関心、一致、共感的理解を取り扱っている。基礎的な説明、発展的な議論、現場での態度条件、海外からの寄稿など、幅広く各態度条件を検討しており、大いに参考になる。中核3条件に関しては、昨年からの継続特集である人間性心理学研究（B-28）もあげられる。

A-2は、日本評論社の「こころの科学 ロジャーズ」から「こころの科学セレクション ロジャーズ」へ引き継がれ、今回さらに日評ベーシック・シリーズとして全訂された書籍である。新たな原稿も加わり、中核三条件も含みつつも、幅広くロジャーズ関係の知見に踏み込んだ解説を加えている良書である。

E-1からE-6は全て「関西大学関西大学心理臨床センター紀要」に収録されている。この領域の理論を検討する上で重要な問題提起や考察を提供している海外論文の紹介である。中田行重氏のこのような貢献はこの分野の発展のために大いに役立つであろう。

なお、2015年は「人間性心理学研究」に7本（B-1, B-3, B-9, B-13, B-16, B-22, B-41）関連文献が掲載されている。

最後に、この領域のパイオニアである畠瀬 稔氏が2014年12月に永眠された。深く哀悼の意を表し、心よりのご冥福をお祈り申し上げる。氏の貢献はB-27, B-29を参照されたい。

## A. 書籍

1. 飯長喜一郎監修坂中正義・三國牧子・本山智敬編 2015 ロジャーズの中核三条件 受容 無条件の積極的関心—カウンセリングの本質を考える2— 創元社

基礎編：無条件の積極的関心とは（坂中正義）

発展・実践編

無条件の積極的関心をほどよく経験するために（佐々木正宏）

中核三条件、とくに無条件の積極的関心か体験される関係のあり方（池見 陽）

心理療法の神経科学と無条件の積極的関心（岡村達也）

現場での無条件の積極的関心（受容）（村山尚子）

グループアプローチにおける2つの無条件の積極的関心（安部恒久）

#### 特別編

外国からの寄稿：エンカウンター・グループに対するパーソンセンタード・アプローチ（コリン・ラーゴ 坂中正義・中鉢路子監訳中島 良訳）

他学派からみた中核三条件：本質的なものは保持されねばならない—他派の視点から—（松木邦裕）

#### コラム

子どもたちから教えられたこと（大島利伸）

緩和ケアの現場で“中核三条件”を体感して（都能美智代）

職場での“中核三条件”の活かし方（渡邊 忠）

誰だ、この私は？（エイモン・オマホリー 坂中正義訳）

聴いて学ぶ 中核三条件—実感にもとづいた人間の尊重（飯長喜一郎）

ではどうしたら良いか—あとがきにかえて—（飯長喜一郎）

## 2. 村瀬孝雄・村瀬嘉代子編 2015 全訂ロジャーズ クライアント中心療法の現在 日本評論社

はじめに（村瀬孝雄）

フォーカシングからみた来談者中心療法（村瀬孝雄）

[Part・1] 基礎—中核条件をめぐって

[事例を通じて] ロジャーズとクライアントたち—ハーバート・ブライアン、グロリア、キャシー、ジャン—（伊藤義美）

[困難な病態を通じて] クライアント中心療法と統合失調症—中核条件のありか（岡 昌之）

[一致] 治療者の純粹性について—非行臨床から得られた知見（羽間京子）

[受容] アタッチメントとしての心理療法の6条件（菅村玄二）

[共感] 「共感的理解」とは何をどのように理解することなのか？—そしてリフレクションの復権（小林孝雄）

[プレゼンス] プレゼンス—治療者の「もう1つの態度条件」をめぐって（岡村達也・保坂 亨）

[エビデンス] リサーチ・エビデンスから見たパーソン中心療法（岡村達也）

[Part・2] 展開

[エンカウンター・グループ] エンカウンター・グループ（下田節夫）

[フォーカシング] ロジャーズからフォーカシングへ—セラピーをより効果的にするために（近田輝行）

[プリセラピー] プリセラピー—パーソン中心療法の第1条件（心理的接触）をめぐって（岡村達也・保坂 亨）

[Part・3] 比較と対照

[支持療法] 心理療法の基底をなすもの—支持的心理療法の場合（滝川

一廣)

[精神分析] クライアント中心療法と精神分析—「ロジャーズとコフォート」  
試論 (岡村達也)

[ナラティヴ] ナラティヴ・プラクティスとPCA—マイケル・ホワイトと  
カール・ロジャーズの比較と対照 (無藤清子)

[マインドフルネス] クライアント中心療法とマインドフルネス (越川房子)

[神経科学] 神経科学から見たクライアント中心療法 (岡村達也)

#### [Part・4] 動向

日本におけるクライアント中心療法—2000年以降の文献史を中心に (坂  
中正義)

クライアント中心療法の国際的動向 (日笠摩子)

カール・ロジャーズ—その普遍性と孤独 (村瀬嘉代子)

#### [クライアント中心療法／雑感]

コトバ・イメージ・実体験 (神田橋條治)

人間への限りない信頼と臨機応変の態度や生き方 (田畑 治)

めったに実現されない“理想”—精神科医の立場から (成田善弘)

ロジャーズと日本 (都留春夫)

ロジャーズ・ストロウ・コフォート—精神分析の立場から (丸田俊彦)

クライアント中心療法から出立して (氏原 寛)

深い含蓄を含んだ方向性—分析心理学の立場から (山中康裕)

ロジャーズとの接触から学んだこと (畠瀬 稔)

ロジャーズの魅力—21世紀の心理療法・人間科学の方向性について (村  
山正治)

あとがき (村瀬嘉代子)

### 3. 村山正治監修 本山智敬・坂中正義・三國牧子編 2015 ロジャーズの中核三 条件—一致—カウンセリングの本質を考える1— 創元社

基礎編：一致をめぐる (本山智敬)

#### 発展・実践編

治療者がみずからの内的体験をそのままに体験し保持することの意味 非  
行臨床の経験から (羽間京子)

クライアント中心療法における一致の臨床的検討 (大石英史)

ファシリテーターの一致について (中田行重)

フォーカシング指向の観点から一致を考える セラピストの真実性はどの  
ようにクライアントの変化に貢献するのか (日笠摩子)

一致からみた共感的理解—レゾナンスモデルをささえるセラピストの《一  
致》— (田村隆一)

#### 特別編

海外からの寄稿：表現すること、一致、そして中核条件 (キャンベル・パー

トン 本山智敬・三國牧子監訳高下恵子訳)

他学派からみた中核三条件：なぜ不可能なのか？からの出発—関係という視点（成田善弘）

#### コラム

日常の現場での三条件を体感して—遊戯療法での体験—（安部順子）

「現場」で聞く一致（野口 真）

看護と一致（広瀬寛子）

読書、物語作り、そして中核条件—私の個人的見解—（ルース・ジョーンズ 本山智敬訳）

聴いて学ぶ 中核3条件—クライアントの力とセラピストの専門性—（村山正治）

日本におけるPCAの発展とこれからの挑戦—あとがきにかえて—（村山正治）

4. 村山正治 2015 村山正治先生にきく（日笠摩子構成）伊藤直文編「心理臨床講義」金剛出版, 135-157.

5. 野島一彦監訳三國牧子・本山智敬・坂中正義編 2015 ロジャーズの中核三条件 共感的理解—カウンセリングの本質を考える3— 創元社

基礎編：共感的理解をとおして（三國牧子）

#### 発展・実践編

プロセスとしての共感的理解—インタラクティブ・フォーカシングで身につける—（近田輝行）

見立てをたてる行為と共感的理解（高橋紀子）

feelingをベースとする共感的理解（永野浩二）

共感、その個別性（森川友子）

「共感」について緩やかにとらえてみる（下田節夫）

#### 特別編

海外からの寄稿：愛情：三条件との関係（スザン・キーズ 三國牧子・中鉢路子監訳梶原律子訳）

他学派からみた中核3条件：いまこそ問われる態度条件（山崎信幸）

#### コラム

保育園という現場からの考察（本田幸太郎）

企業研修講師としての“中核三条件”への関わり方（寺田正美）

自分になるということ（小野京子）

聴いて学ぶ 中核三条件—これからの心理臨床に必要な三条件—グループ体験も視野に—（野島一彦）

永遠のグランド・キーワード—あとがきにかえて—（野島一彦）

## B. 研究論文

1. 有村達之 2015 認知行動療法とセラピー関係 人間性心理学研究, 32(2), 133-138.
2. 傳田容示子 2015 願わくば、PCAで セルフ《自立》カウンセリング研究所所報「白樺」, 72, 8-9.
3. 畠瀬 稔 2015 再録:『人間性心理学研究』創刊のことば 人間性心理学研究, 33(1), 5.
4. 畠瀬直子 2015 ライフワークの原点は軍国少年体験 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 9-11.
5. 東口千津子 2015 畠瀬 稔先生への感謝 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 48-49.
6. 法眼裕子 2015 畠瀬 稔先生の思い出 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 57.
7. 兵頭孝子 2015 カウンセリングを学んで カウンセリング, 47(1), 12-21.
8. 兵頭孝子 2015 白樺の思い出 セルフ《自立》カウンセリング研究所所報「白樺」, 72, 14-15.
9. 池田豊應 2015 人間学的心理学の立場から 人間性心理学研究, 32(2), 117-124.
10. 石井要子 2015 理事長挨拶 カウンセリング, 47(1), 2-3.
11. 石井要子 2015 カウンセラーの基本態度3条件と専門性 カウンセリング, 47(1), 4-11.
12. 伊藤義美 2015 畠瀬 稔先生のご逝去を悼む 日本人間性心理学会ニューズレター, 83, 5.
13. 伊藤義美 2015 追悼にあたって: 畠瀬稔先生のご逝去を悼む—略歴と主要業績— 人間性心理学研究, 33(1), 1-4.
14. 伊藤義美 2015 ソフトなトップウォーカーの畠瀬 稔先生のご逝去を悼む 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 43-44.
15. 岩村 聡 2015 編集後記(その1) 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 191-194.
16. 川上範夫 2015 ロジャーズの三条件をめぐる—精神分析、対象関係論、ウィニコットの観点からの検討— 人間性心理学研究, 32(2), 125-132.
17. 松本 剛 2015 関西人間関係研究センターと畠瀬 稔先生 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 36-39.
18. 森岡正芳 2015 ロジャーズの中核三条件について—ナラティブアプローチから— 人間性心理学研究, 32(2), 133-138.
19. 森田純子 2015 編集後記(その2) 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 195.
20. 本山智敬 2015 編集後記(その3) 人間関係研究会「ENCOUNTER 出

- 会いの広場」, 26, 196.
21. 村田 進 2015 島瀬 稔先生の道程 人間関係研究会「ENCOUNTER 会  
いの広場」, 26, 18-30.
  22. 村山正治 2015 島瀬稔先生と日本日本人間性心理学会の創設と貢献 人間  
性心理学研究, 33(1), 6-8.
  23. 村山正治 2015 PCE 2014 ブエノスアイレス学会特集: Developing  
Encounter Group and Person-Centered Community in the Japanese  
Context: Messages from a quiet Japanese revolution-ary. 東亜臨床心理学  
研究, 14, 3 10.
  24. 村山正治 2015 私を「ひよこ」から「若鶏」へと育てていただいた島瀬 稔  
先輩に感謝 人間関係研究会「ENCOUNTER 会いの広場」, 26, 15-17.
  25. 永原伸彦 2015 島瀬 稔さんの「最後の研究発表」 人間関係研究会  
「ENCOUNTER 会いの広場」, 26, 45.
  26. 中田行重・新里郁那 2015 第33回大会自主企画におけるライブカウンセリ  
ングの体験について 日本人間性心理学会ニュースレター, 83, 2-4.
  27. 人間関係研究会編 2015 特集: 島瀬 稔先生を偲んで 人間関係研究会  
「ENCOUNTER 会いの広場」, 26, 15-57.  
私を「ひよこ」から「若鶏」へと育てていただいた島瀬 稔先輩に感謝 (村  
山正治)  
島瀬 稔先生の道程 (村田 進)  
島瀬 稔先生の「人間中心の教育」(水野行範)  
関西人間関係研究センターと島瀬 稔先生 (松本 剛)  
島瀬 稔先生のエンカウンター・グループ研究をめぐって (野島一彦)  
ソフトなトップウォーカーの島瀬 稔先生のご逝去を悼む (伊藤義美)  
島瀬 稔さんの「最後の研究発表」(永原伸彦)  
島瀬 稔先生の思い出 (高松 里)  
島瀬 稔先生への感謝 (東口千津子)  
島瀬 稔先生から学んだこと (大島利伸)  
島瀬 稔先生の思い出 (法眼裕子)
  28. 日本人間性心理学会編 2015 特集: さまざまな立場からみたロジャーズの  
“三条件” 人間性心理学研究, 32(2), 117-145.  
人間学的心理学の立場から (池田豊應)  
ロジャーズの三条件をめぐって—精神分析、対象関係論、ウィニコットの  
観点からの検討— (川上範夫)  
認知行動療法とセラピー関係 (有村達之)  
ロジャーズの中核三条件について—ナラティブアプローチから— (森岡正  
芳)
  29. 日本人間性心理学会編 2015 追悼: 島瀬稔先生を偲んで 人間性心理学研

究, 33(1), 1-16.

追悼にあたって：畠瀬稔先生のご逝去を悼む—略歴と主要業績—（伊藤義美）

再録：『人間性心理学研究』創刊のことば（畠瀬 稔）

畠瀬稔先生と日本日本人間性心理学会の創設と貢献（村山正治）

畠瀬稔先生のエンカウンター・グループ研究をめぐって（野島一彦）

畠瀬稔先生と学校教育（松本 剛）

30. 小河 豊 2015 曾根つね子さんの小グループに参加して カウンセリング, 47(1), 28-29.
31. 大島利伸 2015 畠瀬 稔先生から学んだこと 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの 広場」, 26, 50-56.
32. 斧原 藍・白崎愛理・中西達也・中田行重 2015 初学者はパーソン・センタード・セラピーをどう見ているか—教育・訓練への示唆を求めて— 関西大学臨床心理専門職大学院紀要, 5, 91-99.
33. 大築明生 2015 大須賀発蔵さんから学んだこと～まなざしとコトバ～ 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 109-112.
34. 坂部まり子 2015 カール・ロジャーズに学んで・クライアント体験から学んで—私のカウンセリング— カウンセリング, 47(1), 22-24.
35. 坂中正義 2015 日本におけるパーソンセンタード・アプローチの発展—文献史を中心に— 南山大学紀要「アカデミア」人文・自然科学編, 9, 167-176.
36. 坂中正義 2015 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト（2014） 南山大学人間関係研究センター「人間関係研究」, 14, 241-274.
37. 佐藤真美子 2015 鳥居泰子さんのグループの司会をして カウンセリング, 47(1), 32.
38. 曾根つね子 2015 カール・ロジャーズに学んで—私のカウンセリング— カウンセリング, 47(1), 26-28.
39. 巢守 光 2015 発表者を囲んでの小グループでの話し合い カウンセリング, 47(1), 24-25.
40. 高松 里 2015 畠瀬 稔先生の思い出 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 46-47.
41. 田中秀男 2015 「一致」という用語にまつわる問題点とジェンドリンによる解決案 人間性心理学研究, 33(1), 29-38.
42. 鳥居泰子 2015 カール・ロジャーズに学んで—私自身のカウンセリング— カウンセリング, 47(1), 29-32.
43. 全日本カウンセリング協議会 2015 特集：第21回二級カウンセラー研修会 カウンセリング, 47(1), 1-50.

第21回カウンセラー二級研修会

理事長挨拶 (石井要子)

【小講義】カウンセラーの基本態度3条件と専門性 (石井要子)

《一級カウンセラー資格取得者によるミニ講演》

    カウンセリングを学んで (兵頭孝子)

《二級カウンセラー資格取得者による体験発表》

    カール・ロジャーズに学んで・クライアント体験から学んで (坂部まり子)

    【発表者を囲んでの小グループでの話し合い】 (巢守 光)

    カール・ロジャーズに学んで (曾根つね子)

    【曾根つね子さんの小グループに参加して】 (小河 豊)

    カール・ロジャーズに学んで (鳥居泰子)

    【鳥居泰子さんのグループの司会をして】 (佐藤真美子)

    講演：あなたの身近な人が心の病に罹ったら (夏莉郁子)

44. 全日本カウンセリング協議会 2015 第21回二級カウンセラー研修会 カウンセリング, 47(1), 1.

### C. 学会発表

1. Cooper, M 2015 What are the Ingredients of Effective Psychotherapy?: A Practitioner-Friendly Review of the Evidence. 日本心理学会第79回大会プログラム, 24.
2. 泉野淳子 2015 「必要十分条件」論文 (C.R.Rogers, 1957) の再々検討 (その6) 日本心理学会第79回大会プログラム, 67.
3. 河野学美・石川須美子・小野貴美子 2015 思春期における楽観性と自己不一致感・精神的健康度の関連 日本心理臨床学会第34回秋季大会発表論文集, 649.
4. 日本心理学会 (第79回大会) 2015 大会準備委員会企画シンポジウム：わが国におけるパーソンセンタード及び体験的アプローチの発展と課題 日本心理学会第79回大会プログラム, 31.  
    企画代表者・司会者 (伊藤義美)  
    話題提供者 (伊藤義美・岡村達也・中田行重・岩壁 茂)  
    指定討論者 (村山正治)
5. 日本心理臨床学会 (第34回大会) 2015 自主シンポジウム：PCA (Person-Centered-Approach) の広がりと深まりを考える—UPR (Unconditional Positive Regard) をめぐって— 日本心理臨床学会第34回秋季大会発表論文集, 713.  
    企画者 (飯長喜一郎)  
    司会者 (飯長喜一郎)  
    話題提供者 (坂中正義・中田行重・園田雅代)  
    指定討論者 (岡野憲一郎)
6. 岡部みゆき・平尾直靖・熊野宏昭 2015 カウンセリング時における共感的

理解の客観的評価—化粧品応対場面でのクライアントに与える心理・生理反応— 日本心理学会第79回大会プログラム, 89.

7. 住沢佳子 2015 人型シールPSSによる自己理解の促進—来談者中心カウンセリングの立場から— 日本カウンセリング学会第48回大会プログラム, 42.

#### D. 翻訳

1. 有山英子 2015 プラウティの体験4 : Prouty, G., Van Werde, D., & Portner, M. (2002) Pre-Thetapy: Teaching Contact-Impaired Clients. Ross-on-Wye, PCC Books. セルフ《自立》カウンセリング研究所所報「白樺」, 72, 2-6.

#### E. 海外文献紹介

1. 今林優希・岡田和典・岡田朋美・川崎智絵・中田行重 2015 指示的な治療環境においてクライアント・センタード・セラピストが非指示的であること～Sommerbeckの論文(2012)の要約と考察～ 関西大学心理臨床センター紀要, 6, 97-105.
2. 中田行重・今林優希・岡田和典・川崎智絵 2015 非指示性に関するCainとGrantの論争—本当のPerson (Client) -Centeredはどちらなのか?— 関西大学心理臨床センター紀要, 6, 79-88.
3. 中田行重・岩井佳那・角 隆司・中村 絢・日野唯香 2015 Gendlinの考えるクライアント中心療法および体験的療法—1974年の論文の紹介— 関西大学心理臨床センター紀要, 6, 69-78.
4. 中田行重・小野真由子・構 美穂・中野紗樹・並木崇浩・本田孝彰・松本理沙 2015 Freire, E.による無条件の肯定的配慮論～古典的クライアント中心療法の主要原理～ 関西大学心理臨床センター紀要, 6, 89-96.
5. 中田行重・佐藤春奈・白崎愛里 須藤亜弥子・中西達也 2015 体験的な立場から見た無条件の肯定的配慮—Lietaer (1984) の論文の紹介— 関西大学心理臨床センター紀要, 6, 59-67.
6. 中田行重・梅井 茜・斧原 藍・齋藤恵子・富宅左恵子 2015 PCTにおけるrenectionの体験喚起的な機能—Rice (1974) "The Evocative Function of The Therapist"の紹介— 関西大学心理臨床センター紀要, 6, 49-58.

#### F. 書評

〔該当文献なし〕

付：同リスト（～2014）「第I部：来談者中心療法」の追録

#### A. 書籍

1. 霜山徳爾 2001 ロージャズと人間学派 「霜山徳爾著作集4 心理療法と精

## B. 研究論文

1. 藤井陽子 2014 般若心経とカウンセリングに参加して 日本グロースセンター「グロース」, 146.
2. 石倉 篤・田中雄大・堀川優依・山本幸代・永野浩二 2014 傾聴トレーニングの実践報告 ゆるやかな構造の中から生まれた自主的な学び 追手門学院大学心のクリニック紀要, 11, 42-56.
3. 兼廣久美子 2014 河合さん、栗田さんを囲んで カウンセリング, 46(1), 25-27.
4. 笠原俊子 2014 カウンセリングを勉強して今思う事 日本グロースセンター「グロース」, 146.
5. 河合功子 2014 カウンセリングを学んで カウンセリング, 46(1), 14-21.
6. 小林孝雄 2012 面接における「1つのありよう」を記述する試み—佐治守夫『Tさんとの面接』の検討— 文教大学人間科学部「人間科学研究」, 33, 77-87.
7. 小河 豊 2014 開会にあたってのお話 カウンセリング, 46(1), 3-4.
8. 栗田潤子 2014 カール・ロジャーズに学んで—私のカウンセリング— カウンセリング, 46(1), 22-25.
9. 永原弘子 2014 カール・ロジャーズに学んで—今、たどりついたところ— カウンセリング, 46(1), 27-30.
10. 中村香理 2014 セラピストの純粋性に関する質的研究—対人プロセス想起法を用いた一致性と透明性の検討— カウンセリング研究, 47(2), 49-57.
11. 中田行重 2014 わが国におけるパーソン・センタード・セラピーの課題 心理臨床学研究, 32(5), 567-576.
12. 中田行重・井上菜々・斧原藍他 2014 一般市民のための共感訓練のワークショップ 関西大学臨床心理専門職大学院紀要, 4, 1-10.
13. 岡村達也 2014 第20回二級カウンセラー研修会 カウンセリング, 46(1), 1.
14. 岡村達也 2014 理事長挨拶（2日目） カウンセリング, 46(1), 2-3.
15. 田中れい子 2014 永原弘子さんのグループに参加して カウンセリング, 46(1), 30-32.
16. 吉田 務 2014 秩父へ行って発蔵先生に会いたい! 日本グロースセンター「グロース」, 146.
17. 全日本カウンセリング協議会 2014 特集：第20回二級カウンセラー研修会 カウンセリング, 46(1), 1-50.  
第20回カウンセラー二級研修会  
理事長挨拶（2日目）（岡村達也）  
開会にあたってのお話（小河 豊）

【小講義】 幾度もロジャーズの名を（岡村達也）  
《一級カウンセラー資格取得者によるミニ講演》  
    カウンセリングを学んで（河合功子）  
《二級カウンセラー資格取得者による体験発表》  
    カール・ロジャーズに学んで（栗田潤子）  
    【河合さん、栗田さんを囲んで】（兼廣久美子）  
    カール・ロジャーズに学んで（永原弘子）  
    【永原弘子さんのグループに参加して】（田中れい子）  
講演：エンカウンター・グループのファシリテーション（野島一彦）

#### C. 学会発表

〔該当文献なし〕

#### D. 翻訳

〔該当文献なし〕

#### E. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

#### F. 書評

〔該当文献なし〕

## 第Ⅱ部：ベーシック・エンカウンター・グループ

「第Ⅱ部：ベーシック・エンカウンター・グループ」には関連文献のうち、ベーシック・エンカウンター・グループ、パーソン・センタード・アプローチなどの来談者中心のオリエンテーションにもとづくグループ・アプローチ、「ファシリテーター」「グループ・プロセス」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した<sup>2</sup>。

2015年の概要は次のとおりである。「A. 書籍」は2本で、そのうち1つが単行本であった。「B. 研究論文」は29本で、そのうち1つが特集であった。「C. 学会発表」は1本で、シンポジウムであった。「D. 翻訳」はなかった。「E. 海外文献紹介」はなかった。「F. 書評」は2本であった。

2015年における「ベーシック・エンカウンター・グループ」の特徴は、安部恒久氏のグループアプローチ論集（A-1）が刊行されたことと、人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」が発刊されたことであろう。

A-1は、安部氏のこれまでのグループ・アプローチに関する論文中心にまと

---

<sup>2</sup> なお、体験過程療法に特化したグループ・カウンセリングは、第Ⅲ部へ収録されている。

めた論集である。スケープゴートに注目しつつも、グループに関わる多面的なテーマを取り扱っており、大いに参考になる。

人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」は人間関係研究会の研究雑誌として2003年まで定期刊行され、その後、休刊となった。今回、畠瀬 稔氏の追悼という意味も込め、久々の発刊となった。エンカウンター・グループに関する論文に限らず、様々な論文が掲載されているため（本文献リストにも全ての部門に収録されているため、コードナンバーを全て上げることはしない）、読み応えがある。

なお、2015年は「心理臨床学研究」に1本（F-1）、「人間性心理学研究」に1本（F-2）、関連文献が掲載されている。

## A. 書籍

1. 安部恒久 2015 グループアプローチ論集 斯文堂（非売品）  
まえがき  
第1章 私の「グループ体験」研究法  
第2章 スケープゴート構造とグループプロセスへの着目  
第3章 スケープゴートから自己実現過程へ  
第4章 スケープゴートのファシリテーション  
第5章 スクールカウンセラーとグループアプローチ  
第6章 教育支援におけるグループアプローチの活用  
第7章 個人療法の中核3条件とグループアプローチ  
第8章 “自分が自分になる” リスク：メンバー体験の位置づけ  
終わりに
2. 村久保雅孝 2015 エンカウンター・グループ体験を物語る一日常と非日常をつなぐ試み― 森岡正芳編「臨床ナラティブアプローチ」ミネルヴァ書房、第7章。

## B. 研究論文

1. 相原 誠 2015 私とエンカウンター・グループ～メンバーの安全感を大切にしながら～ 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 144-145.
2. 広瀬寛子 2015 私にとっての人間関係研究会 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 128.
3. 石田妙美 2015 養護教諭養成におけるエンカウンター・グループの実践 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 101-105.
4. 岩村 聡・森田純子・本山智敬 2015 仲間中心のエンカウンター・グループにおけるファシリテータータイプな言動や態度や集団運営 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 149-168.

5. 金子周平 2015 ラージ・グループ 大きなグループへの可能性 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 137-141.
6. 小林 誠 2015 ベースキャンプの定点観測—広島EGと私— 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 173-174.
7. 増田 實 2015 エンカウンター・グループでの「課題・関心別セッション」の意義などを探る～その1事例の提示、そこからの探索～ 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 85-94.
8. 松井九重 2015 2015年2月22日 白樺によせて セルフ《自立》カウンセリング研究所所報「白樺」, 72, 7.
9. 松本 剛 2015 ベーシック・エンカウンター・グループにおけるファシリテーターの「自己一致」ファシリテーター研修グループのふりかえりをもとに 南山大学人間関係研究センター「人間関係研究」, 14, 37-48.
10. 森田純子 2015 エンカウンターグループに参加するようになって 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 176-177.
11. 本山智敬 2015 高校生と共に作ったエンカウンター・グループ 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 95-100.
12. 本山智敬 2015 特集にあたって 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 135-136.
13. 村久保雅孝 2015 私が思い描くエンカウンター・グループの実践と研究のこれから 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 67-70.
14. 南山大学人間関係研究センター編 2015 日本人間性心理学会第33回大会「グループの可能性と広がり」自主企画「グループ臨床体験を語り合う集い」南山大学人間関係研究センター「人間関係研究」, 14, 1-36.
15. 人間関係研究会編 2015 特集：エンカウンター・グループの新たな可能性 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 135-145.  
 特集にあたって (本山智敬)  
 ラージ・グループ 大きなグループへの可能性 (金子周平)  
 方法としてのエンカウンターグループ—自分らしくあるために—(白井祐浩)  
 私とエンカウンター・グループ～メンバーの安全感を大切にしながら～(相原 誠)
16. 野島一彦 2015 エンカウンター・グループのオーガナイザーの役割 跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 11, 99-104.
17. 野島一彦 2015 畠瀬 稔先生のエンカウンター・グループ研究をめぐって 人間性心理学研究, 33(1), 9-11.
18. 野島一彦 2015 畠瀬 稔先生のエンカウンター・グループ研究をめぐって 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 40-42.
19. 野島一彦 2015 岩村・森田・本山論文へのコメント 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 169-170.

20. 野島一彦・下田節夫・高良 聖・高橋紀子 2015 グループをめぐる対話 跡見学園女子大学文学部臨床心理学科紀要, 3, 93-103.
21. 大島利伸 2015 グループの可能性と広がりに関する私論 南山大学人間関係研究センター「人間関係研究」, 14, 49-65.
22. 小柳春生 2015 「ゆっくり生きる」ことを援助するエンカウンター・グループ—現代におけるE・Gの社会的意義・再考— 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 73-80.
23. 尾崎かほる 2015 エンカウンター・グループと私 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 61-66.
24. 白井祐浩 2015 方法としてのエンカウンターグループ—自分らしくあるために— 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 142-143.
25. 杉浦崇仁・古野 薫・近藤崇史・楠 美枝・上岡由香・吉持慕香・村山正治 2015 「PCAグループ」及び「PCAGIP法」に関する文献リスト(2014) 東亜臨床心理学研究, 14, 49-54.
26. 鈴木聖幸 2015 ヒューマン・ムーブメントの流れの中で 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 83-84.
27. 高橋紀子 2015 エンカウンター・グループとエンカウンター・グループ的なものに関する一考察 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 71-72.
28. 都能美智代 2015 沖縄スローエンカウンター・グループからの気づき 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 81-82.
29. 山西早苗 2015 私にとってのエンカウンターグループ 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 175.

### C. 学会発表

1. 日本心理臨床学会(第34回大会) 2015 自主シンポジウム:エンカウンター・グループのオーガナイザーの役割 日本心理臨床学会第34回秋季大会発表論文集, 721.  
企画者(高橋紀子)  
司会者(岡村達也)  
話題提供者(野島一彦・下田節夫・高橋紀子)  
指定討論者(楠本和彦)

### D. 翻訳

[該当文献なし]

### E. 海外文献紹介

[該当文献なし]

## F. 書評

1. 太田裕一 2015 「村山正治編著 2014『自分らしさ』を認めるPCAグループ入門—新しいエンカウンターグループ法— 創元社」心理臨床学研究, 33(3), 333-334.
2. 山田俊介 2015 「村山正治編著 2014『自分らしさ』を認めるPCAグループ入門—新しいエンカウンターグループ法— 創元社」人間性心理学研究, 33(1), 79-80.

付：同リスト（～2014）

「第Ⅱ部：ベーシック・エンカウンター・グループ」の追録

## A. 書籍

〔該当文献なし〕

## B. 研究論文

1. 木村太一・相原 誠・村山正治 2013 大学1年生を対象としたPCAグループ実施の試み 入学初期の不安緩和と仲間意識の育成を目的として— 福岡国際大学紀要, 29, 55-60.
2. 本山智敬 2010 1年次演習科目におけるグループワーク導入の試み—PCAグループの視点から— 福岡大学研究部論集A, 10(1), 25-34.
3. 大島浩子 2014 第二土曜日EGに参加して 日本グロースセンター「グロース」, 146.
4. 押江 隆・井土 優・宇佐川志帆・熊谷佐紀・戸谷紀子・日高美咲・樋野友希・平田麻衣・藤田理恵・松田咲子・松田典子・三浦啓子 2013 大学院の講義におけるエンカウンター・グループのファシリテーター養成の試み」山口大学大学院教育学研究科附属臨床心理センター紀要, 4, 69-82.
5. 下田節夫 1988 ファシリテーターの専門性と人間性について—エンカウンター・グループにおける構造を考える— 第21回学生相談研究会山口シンポジウム報告書, 72-75.
6. 杉浦崇仁 2011 テキストマイニングを用いた複数PCAグループにおけるセッションの意義について 東亜大学大学院総合学術研究科臨床心理学専攻修士論文

## C. 学会発表

〔該当文献なし〕

## D. 翻訳

〔該当文献なし〕

## E. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

## F. 書評

〔該当文献なし〕

### 第Ⅲ部：体験過程療法・フォーカシング

「第Ⅲ部：体験過程療法・フォーカシング」には関連文献のうち、体験過程療法やフォーカシング、フォーカシング指向心理療法、「体験過程」「フェルトセンス」「シフト」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した。

2015年の概要は次のとおりである。「A. 書籍」は1本で、単行本であった。「B. 研究論文」は55本であった。「C. 学会発表」は4本で、そのうち2つがシンポジウムであった。「D. 翻訳」は2本であった。「E. 海外文献紹介」はなかった。「F. 書評」は4本であった。

2015年における「体験過程療法・フォーカシング」の特徴は、ワーク集であるA-1が刊行されたことであろう。

A-1は、一般にもわかりやすいフォーカシングのワーク集である。編者を中心に創意工夫してわかりやすく安全なワークを開発してきた1つの結晶といえる。フォーカシングを「健康志向の心理学」と表現しているあたり、これまでの関連書籍にはない、可能性に満ちた方向性を示している。

関連して、C-2も日常におけるフォーカシングを取り扱っており、一般や日常へフォーカシングが「なじむ」ことが2015年の1つのテーマになっているようである。

なお、2014年は「心理臨床学研究」に2本（B-5, B-14）、「人間性心理学研究」に2本（B-13, B-48）、関連文献が掲載されている。「体験過程療法・フォーカシング」の文献は、日本フォーカシング協会ニューズレター「The Focuser's Focus」にコンスタントに発表されている。

## A. 書籍

1. 森川友子編 2015 フォーカシング健康法 ―こころとからだが好き創作ワーク集― 誠信書房
  - 第1章 フォーカシングって？
  - 第2章 自分で行うフォーカシング
  - 第3章 体の不調とフォーカシング
  - 第4章 誰かとフォーカシングをする
  - 第5章 フォーカシングを創ろう
  - 第6章 フォーカシング的な生き方

## B. 研究論文

1. 伊達山裕子 2015 「こころの天気」発表者としての感想 The Focuser's Focus, 18(3), 13.
2. 長谷川 晃 2015 超びっとフォーカシング(2) The Focuser's Focus, 18(2), 22.
3. 石倉 篤 2015 Tグループにおける他者との関わりを通した在り方の変容の過程(2) 体験過程が進展した参加者の語りのKJ法による検討 南山大学人間関係研究センター「人間関係研究」, 14, 183-204.
4. 実行委員会編 2015 フォーカサーの集い2014 in 名古屋・感想集 The Focuser's Focus, 17(4), 3-4.
5. 春日菜穂美 2015 アート表現を用いた震災トラウマ・カウンセリングーナラティブ技法としてのアート・フォーカシングの意義— 心理臨床学研究, 33(4), 390-400.
6. 片山睦枝・酒井久実代・小坂淑子・笹田晃子・KT・大沢直美・長谷川 晃・阿部セツ子・大迫久美恵・白土准子・小池順子 2015 京都で私たちはつぶやいた…『2016つどい～福島に集う～』に向けて… The Focuser's Focus, 18(3), 11-12.
7. 勝崎一也 2015「臨床現場のフォーカシングー変化の本質—」輪読会に参加して The Focus-er's Focus, 18(3), 19-21.
8. 川地玲子 2015 パトリシア・オミディアン博士の学びから The Focuser's Focus, 18(3), 17-18.
9. 川崎佐加恵 2015 感想—フォーカサーの集いに参加して：「3.11とフォーカシング」 The Focuser's Focus, 18(3), 7.
10. 吉良安之 2015 セラピスト・フォーカシングの紹介とその実践の拡がり The Focuser's Focus, 17(4), 10-11.
11. 小池順子 2015 「3.11とフォーカシング」と私。集いを福島県いわき市で The Focuser's Focus, 18(3), 8.
12. 小坂淑子 2015 フォーカシングのいろいろ Working with KOL-BE (コルビーと共に) The Focuser's Focus, 18(1), 17-18.
13. 久羽 康 2015 象徴化のプロセスとしての人間主体—Gendlinの思想を主体論として理解する— 人間性心理学研究, 33(1), 39-49.
14. 黒崎和泉 2015 フォーカシング的態度とストレス反応との関連について 心理臨床学研究, 33(1), 81-86.
15. 前田満寿美 2015「インタラクティブ・フォーカシング継続ワークショップ」について The Focuser's Focus, 17(4), 12.
16. 前田満寿美 2015 ベルギーでのインタラクティブ・フォーカシング・ワークショップ The Focuser's Focus, 18(2), 21-22.
17. 三木健郎 2015 フォーカシングと複雑トラウマワークショップでのフォーカ

- サー体験 The Focuser's Focus, 18(2), 14.
18. 三宅麻希 2015 フォーカシングと複雑トラウマワークショップ (FOTCT) in 大阪2015 を終えて The Focuser's Focus, 18(2), 10-13.
  19. 宮村なおみ 2015 感想4 The Focuser's Focus, 18(3), 17.
  20. 宮下武二郎 2015 出店に参加できなかった者の声：「2011.3.11後の東北地方を訪ねて」 The Focuser's Focus, 18(3), 9-10.
  21. 宮田周平 2015 子どもとフォーカシング「こころの天気」に参加して The Focuser's Focus, 18(3), 13.
  22. 村上優子 2015 「第11回JCFA 子どもとフォーカシングワークショップ in 京都」を終えて The Focuser's Focus, 18(2), 7-8.
  23. 村山・古澤・長嶋 2015 2015 集いと出店 JCFA 『こころの天気』実践報告と『一分半(ショート) こころの天気』の提案 The Focuser's Focus, 18(3), 12-13.
  24. 村山正治・田村隆一・池見 陽・井上澄子・上村英生 2015 メアリー・ヘンドリックス・ジェンドリン追悼 The Focuser's Focus, 18(1), 2-4.
  25. 永野浩二 2015 可能性につながること～ショーンとアレクシスのワークショップに参加して～ The Focuser's Focus, 18(2), 15-16.
  26. 長嶋宏美 2015 子どもフォーカシングと私 The Focuser's Focus, 17(4), 16.
  27. 中村匡男 2015 感想3 The Focuser's Focus, 18(3), 16-17.
  28. 野田長生 2015 フォーカシングにおいて盲点となりがちな自我意識の変化過程 The Focuser's Focus, 18(2), 17-20.
  29. 大迫久美恵 2015 「3.11とフォーカシング 4」の出店を終えて The Focuser's Focus, 18(1), 15-16.
  30. 大澤美枝子 2015 ビビ・サイモンへ The Focuser's Focus, 18(3), 22-24.
  31. 大田民雄 2015 フォーカシングと孤独 The Focuser's Focus, 17(4), 15.
  32. 李明(大澤美枝子協力) 2015 マインドフルネスの四つの側面からフォーカシングの気づきの特徴を見る The Focuser's Focus, 18(1), 21-23.
  33. 笹田晃子 2015 “綿菓子シート”で気軽にTAE (Thinking at the Edge:エッジで考える) The Focuser's Focus, 18(2), 23.
  34. 笹田晃子・小池順子・大迫久美恵 2015 「3.11とフォーカシング 5」の報告 The Focuser's Focus, 18(3), 8-9.
  35. 芝田淳子 2015 第11回JCFA 子どもとフォーカシングワークショップ (in) 京都に参加して The Focuser's Focus, 18(2), 9-10.
  36. 新川幹郎 2015 インタラクティブの「力」 The Focuser's Focus, 17(4), 14.
  37. 末廣純子 2015 禅とインタラクティブ・フォーカシング The Focuser's Focus, 17(4), 12-13.
  38. 鈴木秀子 2015 感想1 The Focuser's Focus, 18(3), 15-16.

39. 高橋隼人 2015 キャリアとフォーカシング～「やりたいこと」と丁寧につき合うひととき～ The Focuser's Focus, 17(4), 11.
40. 高橋弘紀 2015 積算線計量と福島と物差し (と3.11とフォーカシング) The Focuser's Focus, 18(2), 30-21.
41. 高須賀忠雄 2015 「年に一度のインタラクティブ・フォーカシング」WS参加者の感想 The Focuser's Focus, 18(3), 15.
42. 玉澤秀寿 2015 2014 継続ワークショップ感想 The Focuser's Focus, 17(4), 13-14.
43. 筒井優介 2015 フォーカシングとゲシュタルトのコラボレーションワークショップ～「からだ」を大事にした2日間～ The Focuser's Focus, 18(1), 12-15.
44. 筒井優介 2015 フォーカサーの集い 2015 in 京都 体験報告 The Focuser's Focus, 18(3), 6.
45. 筒井優介 2015 26th International Focusing Conference 体験報告 The Focuser's Focus, 18(3), 14.
46. 内田利広・青木 剛・山根英之・河崎俊博・小泉隆平・平野智子・阿部セツ子・山本 美保 2015 フォーカサーの集い2015 in 京都…実行委員からの感想 The Focuser's Focus, 18(3), 3-5.
47. 上村英生 2015 フォーカシングの源流(中)―池見陽さん、札幌ワークショップで語る― The Focuser's Focus, 17(4), 4-9.
48. 上蘭俊和 2015 こころの天気における心理的变化と描画の特徴 人間性心理学研究, 32(2), 147-156.
49. 渡邊真教 2015 感想2 The Focuser's Focus, 18(3), 16.
50. 矢木 薫 2015 フォーカサーの集い 2015 in 京都 に参加して The Focuser's Focus, 18(3), 6-7.
51. 山本裕真 2015 「第11回JCFA 子どもとフォーカシングワークショップ in 京都」に参加して The Focuser's Focus, 18(2), 8-9.
52. 山本美保 2015 「超びっとフォーカシング」に寄せて The Focuser's Focus, 18(1), 20-21.
53. 山根英之 2015 超びっとフォーカシング―自分の実感に触れる― The Focuser's Focus, 18(3), 22.
54. 矢野キエ 2015 子どもとフォーカシング 私の体験 The Focuser's Focus, 18(1), 18-19.
55. 米倉康江 2015 茅山荘でのインタラクティブフォーカシング継続ワークショップ The Focuser's Focus, 17(4), 13.

### C. 学会発表

1. 越川陽介 2015 フォーカサーの集いに初参加&初出店して The Focuser's

- Focus, 18(3), 5-6.
2. 日本心理臨床学会（第34回大会）2015 自主シンポジウム：「日常におけるフォーカシングの態度」について考える 日本心理臨床学会第34回秋季大会発表論文集, 678.  
企画者（永野浩二・福盛英明・森川友子・平井達也）  
司会者（永野浩二・平井達也）  
話題提供者（永野浩二・森川友子・青木 剛・上西裕之・平井達也）  
指定討論者（池見 陽・福盛英明）
  3. 日本心理臨床学会（第34回大会）2015 自主シンポジウム：「こころの天気」描画法の臨床的活用の可能性（2）—活用の広がりとは分析への足がかり—日本心理臨床学会第34回秋季大会発表論文集, 708.  
企画者（土江正司・足立智昭）  
司会者（足立智昭）  
話題提供者（土井晶子・古御門幸奈・土江正司）  
指定討論者（大河原美以）
  4. 酒井久実代・池見 陽 2015 フェルトセンスを象徴化する傾向と精神的健康との関連 日本心理学会第79回大会プログラム, 97.

#### D. 翻訳

1. エクステイン, J (大澤美枝子協力) 2015 国際交流コーナー The Focuser's Focus, 18(2), 24-25.
2. Foxcroft, R. (久羽 康訳) 2015 シリーズ：世界のフォーカシング（7）英国におけるフォーカシング The Focuser's Focus, 17(4), 18-20.

#### E. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

#### F. 書評

1. 堀尾直美 2015「石井栄子・小山孝子 2014『フォーカシング指向親向け講座—親子のためのホット講座—』コスモス・ライブラリー」The Focuser's Focus, 18(1), 19-20.
2. 石井栄子・小山孝子 2015「石井栄子・小山孝子 2014『フォーカシング指向親向け講座—親子のためのホット講座—』コスモス・ライブラリー」日本人間性心理学会ニュースレター, 83, 6.
3. 望月秋一 2015「Cornell, A.W. (大澤美枝子・木田満里代・久羽 康・日笠摩子訳)『臨床現場のフォーカシング—変化の本質—』金剛出版」The Focuser's Focus, 17(4), 17.
4. 岡田敦史 2015「Cornell, A.W. (大澤美枝子・木田満里代・久羽 康・日笠摩

子訳)『臨床現場のフォーカシング—変化の本質—』金剛出版|人間性心理学研究, 33(1), 81-84.

付: 同リスト (～2014)「第Ⅲ部: 体験過程療法・フォーカシング」の追録

#### A. 書籍

〔該当文献なし〕

#### B. 研究論文

1. 平野智子 2012 対人援助職支援としてのフォーカシングの有益性の検討—産業保健師を対象として— 心身医学, 52(12), 1137-1145.
2. 池見 陽 2013 ひまわり、イワシ、そして覚知の拡大～身体化から呼応する共身体化過程へ～ トランスパーソナル心理学/精神医学, 13(1), 14-23.
3. 池見 陽・河田悦子 2006 臨床経験が浅いセラピストとのセラピスト・フォーカシング事例: トレーニング・セラピーの要素を含むセラピスト援助の方法について 神戸女学院大学大学院人間科学研究科心理相談室紀要, 7, 3-13.
4. 石倉 篤 2014 Tグループにおける他者との関わりを通じたプロセスと体験過程の変化 体験過程スケールの視点を用いて 2014年度追手門学院大学大学院心理学研究科心理学専攻修士論文
5. 伊藤研一 2013 フォーカシングになじみがない初心セラピスト同士のセラピスト・フォーカシング—セラピスト・フォーカシング・レシピを用いて— 学習院大学文学部研究年報, 60, 143-157.
6. 伊藤研一・寺脇 梓 2008 臨床心理士養成教育におけるフォーカシングの意味 学習院大学人文科学研究所「人文」, 7, 45-65.
7. 真澄 徹 2012 臨床心理実習におけるセラピスト・フォーカシングの意味 学習院大学人文科学論集, 21, 149-166.
8. 真澄 徹・清水邦光 2011 試行カウンセリングにおけるセラピスト・フォーカシングの意味 学習院大学人文科学論集, 20, 189-209.
9. 富宅左恵子 2013 大学院生同士による継続したセラピスト・フォーカシングセッションの意義 関西大学臨床心理士専門職大学院紀要, 3, 31-39.
10. 牛尾幸世 2009 緩和ケアに携わる看護師に対する心理的援助—セラピスト・フォーカシングを活用した看護師の感情体験を支える方法の試み— 平成20年度福岡大学大学院人文科学研究科教育・臨床心理専攻修士論文
11. 山中扶佐子 2002 フォーカシングの成功と共感性について 平成14年度文教大学大学院人間科学研究科臨床心理学専攻修士論文

#### C. 学会発表

〔該当文献なし〕

#### D. 翻訳

〔該当文献なし〕

#### E. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

#### F. 書評

〔該当文献なし〕

### 第Ⅳ部：その他

「第Ⅳ部：その他」には関連文献のうち、親子関係・家庭生活、教育・学習（学生中心の教授法や人間中心の教育など）等の来談者中心のオリエンテーションの広がりやその基礎概念、歴史、人物等、また、表現療法などのこれまでの3部には分類されないものを収録した。

2015年の概要は次のとおりである。「A. 書籍」は2本で、そのうち1つが単行本であった。「B. 研究論文」は4本であった。「C. 学会発表」は3本であった。「D. 翻訳」は1本で、単行本であった。「E. 海外文献紹介」はなかった。「F. 書評」は1本であった。

2015年における「その他」の特徴は、心理臨床家の養成について論じたA-2、多元的アプローチについて紹介したD-1が刊行されたことであろう。

A-2は、村山正治氏による大学院生の指導・養成・訓練のスタンスを学生の自己実現モデルとして論じたものである。氏がことある毎に述べてきた考え方やスタンスを学生側の視点と共にまとめた書籍である。タイトルや目次にPCAのキーワードは出てこないものの、教育におけるPCAのスタンスを示した代表的書籍である。

D-1は、ミック・クーパー氏らによる心理療法への多元的アプローチについて紹介した書籍である。第1部にリスト化すべきか迷ったが、発展的展開としてこちらに分類した。

なお、2015年は「人間性心理学研究」に関連文献が1本（B-1）掲載されている。

#### A. 書籍

1. 村山正治 2015 福岡人間関係研究会・あるパーソン・センタードコミュニティの創設・展開・活動から学んできたこと—21世紀における人間・組織・リーダー・コミュニケーションのあり方に示唆するもの— 伊藤直文編「心理臨床講義」金剛出版, 11-48.
2. 村山正治監修井出智博・吉川麻衣子編 2015 心理臨床の学び方—鉞脈を探す、体験を深める— 創元社

監修者まえがき (村山正治)

編者まえがき (井出智博)

## 第I部 出会う

第1章 臨床心理学を学ぶ場との出会い (木村太一)

第2章 自分を支える資源—共に学ぶ仲間—の存在— (川崎佐加恵)

## 第II部 育む

第3章 臨床研究における方法論をめぐって—「共創」という視点— (吉川麻衣子)

第4章 実践の中からいかに新しい技法を作っていくか (緒方 泉)

## 第III部 深める

第5章 研究と臨床の関係性—臨床に基づいたエビデンスを求めて— (井出智博)

第6章 臨床と研究におけるオリジナリティ—独創性と普遍性のせめぎ合い— (森田 智)

第7章 臨床家はどのようにして統計が嫌いなのか—統計嫌いのあなたへ— (白井祐浩)

## 第IV部 発信する

第8章 臨床と研究の本質を論文化するプロセス—研究テーマの構築— (小林純子)

第9章 臨床論文を執筆すること・発表することの意味—自分にとってその体験はどんな意味があったのか— (都能美智代)

特別寄稿 大学院生の指導・養成・訓練のための自己実現モデルの展開 (村山正治)

編者あとがき

## B. 研究論文

1. 松本 剛 2015 畠瀬稔先生と学校教育 人間性心理学研究, 33(1), 12-16.
2. 水野行範 2015 畠瀬 稔先生の「人間中心の教育」 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 31-35.
3. 村山正治・古野 薫・村上恵子・近藤崇史・新開佳子・楠 美枝・北田朋子・畑中美穂 2015 PCAGIP法の実際 (VII) 東亜大学大学院総合学術研究科「心理臨床研究」, 15, 65-82.
4. 大須賀克己 2015「空・くう」—セラピーの新たな意義— (ニューサイエンスと、ホリスティック視点を通して) 人間関係研究会「ENCOUNTER 出会いの広場」, 26, 113-121.

## C. 学会発表

1. 南 雅則・松本 剛 2015 PCAGIP法による事例検討が教師のビリーフと被

- 援助志向性に与える影響 日本カウンセリング学会第48回大会プログラム, 40.
2. 望月洋介・井上 淳・稲土愛奈 2015 若手心理臨床家のグループで行うPCAGIPの効果—量的データの統計学的検定による検討— 日本心理臨床学会第34回秋季大会発表論文集, 403.
  3. 白井祐浩・徳永淑乃 2015「私の臨床」の振り返りによるセラピスト・アイデンティティの再確認—初学者セラピストのセラピスト・センタード・トレーニング事例を通して— 日本心理臨床学会第34回秋季大会発表論文集, 172.

#### D. 翻訳

1. Cooper, M. & McLeod, J. 2011 Pluralistic Counselling and Psychotherapy. Sage. (末武康弘・清水幹夫監訳 2015 心理臨床への多面的アプローチ—効果的なセラピーの目標・課題・方法— 岩崎学術出版社)

##### 序文

第1章 多面的アプローチへの導入

第2章 多面的アプローチの基盤

第3章 協働的なセラピー関係の構築

第4章 クライアントの目標：セラピーの出発点

第5章 課題：セラピーの実践の焦点化

第6章 方法：変化を促進するための資源

第7章 実証的研究：多面的なカウンセリングとサイコセラピーを發展させる

第8章 スーパービジョン, トレーニング, 継続的専門職能力開発 (CPD), サービスの提供：多面的な観点

第9章 ディスカッション：新しいパラダイムに向けて

##### 文献

付録A あなたのセラピーを最もよいものにするために

付録B セラピーパーソナライゼーションフォーム

付録C 目標フォーム

#### E. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

#### F. 書評

1. 井出智博・吉川麻衣子 2015「村山正治監修 井出智博・吉川麻衣子編 2015『心理臨床の学び方—脈を探る、体験を深める—』創元社」日本人間性心理学会ニュースレター, 84, 7.

付：同リスト（～2014）「第Ⅳ部：その他」の追録

A. 書籍

〔該当文献なし〕

B. 研究論文

〔該当文献なし〕

C. 学会発表

〔該当文献なし〕

D. 翻訳

〔該当文献なし〕

E. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F. 書評

〔該当文献なし〕

統計

2015年に発行された文献、及び追録された文献を先述の坂中（2004）に従い分類した。その結果を以前のデータと共にtableに示した。2015年に公刊された関連文献は159篇（「来談者中心療法」56篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」33篇、「体験過程療法・フォーカシング」62篇、「その他」8篇）であった<sup>3</sup>。

よって、これまでに日本で公刊された関連文献は7535篇（「来談者中心療法」3424篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」1804篇、「体験過程療法・フォーカシング」1983篇、「その他」324篇）となった。

---

<sup>3</sup> 学会発表は合計に含まれていない。

お願い

リストに収録した文献の記述上の誤りを見つけられた方、また、該当する文献を執筆された方、もれている文献を御存知の方は、筆者まで御連絡願えれば幸いです。

連絡先 〒466-8673 愛知県 名古屋市昭和区山里町18  
南山大学 人文学部 坂中正義  
E-mail:sakanaka@nanzan-u.ac.jp  
Fax: 052-832-3110 (ダイヤルイン) 3955

Table 日本におけるパーソルセンターード・アプローチに関する発行文献数 (2016. 2. 4現在)

	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90-94	95-99	00-04	05-09	2010	2011	2012	2013	2014	2015	合計		
来談者中心療法 (含: 基礎概念)	2	7	13	35	14	15	13	9	20	15	8	14	2	1	0	0	1	4	173		
書籍: 単行本	3	5	9	27	47	43	48	20	111	118	53	35	0	9	30	0	3	1	562		
書籍: 章	0	0	0	1	2	9	19	15	3	11	13	15	2	1	2	1	2	4	100		
論文: 特集	0	5	91	68	67	114	149	229	186	316	347	277	54	46	70	29	41	40	2129		
論文: 一般	1	3	8	5	1	3	4	1	0	10	12	2	1	1	0	0	0	0	55		
翻訳: 単行本	0	0	41	106	3	6	8	7	6	13	59	1	0	2	2	0	0	0	257		
翻訳: 章	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	8	0	0	0	1	1	6		
海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19		
書評	0	0	0	1	2	0	2	9	4	6	15	13	57	4	1	7	2	6	0	129	
参考: シンホ	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	9	9	1	2	2	4	2	2	36		
参考: 一般	0	5	28	19	9	16	2	4	18	21	38	27	3	7	7	8	20	5	237		
合計(学会発表は除く)	6	20	158	247	138	190	249	288	334	488	505	419	64	60	112	34	56	56	3424		
ベーンク・エンカウンター・グループ (含: グループカウンセリング)	0	1	0	1	0	1	2	1	4	3	2	4	1	2	1	0	1	0	1	25	
書籍: 単行本	0	0	1	1	4	19	16	15	30	29	14	4	0	0	10	0	0	1	144		
書籍: 章	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	1	4	2	0	0	0	0	0	1	20	
論文: 特集	0	0	3	0	37	121	247	206	283	155	216	142	46	22	17	11	10	28	1544		
論文: 一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14		
翻訳: 単行本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
翻訳: 章	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
書評	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
参考: シンホ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
参考: 一般	0	0	1	0	0	28	40	44	54	42	29	45	55	10	7	4	10	10	0	379	
合計(学会発表は除く)	0	1	4	2	46	149	270	226	339	195	247	166	47	27	29	11	12	33	1804		
体験過程療法 フオーカシング (含: 体験過程の基礎概念)	0	0	0	0	0	2	5	4	5	17	37	18	7	0	2	21	1	5	0	124	
書籍: 単行本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	5	21	1	0	0	0	0	32	
書籍: 章	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
論文: 特集	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
論文: 一般	0	0	0	0	1	24	65	98	130	190	397	346	56	83	85	57	35	55	1622		
翻訳: 単行本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5	5	8	1	0	0	0	24		
翻訳: 章	0	0	2	5	2	7	8	3	1	1	5	5	5	0	1	3	4	4	2	57	
海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
書評	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
参考: シンホ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
参考: 一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
合計(学会発表は除く)	0	0	0	2	7	6	37	80	115	158	265	457	409	68	91	113	64	49	62	1982	
その他 (教育・経営など)	0	0	0	4	2	2	0	0	0	1	5	1	5	1	3	0	1	3	0	1	22
書籍: 単行本	0	0	0	2	0	0	2	0	0	5	6	3	1	0	0	11	0	0	1	31	
書籍: 章	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	
論文: 特集	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
論文: 一般	0	0	4	1	6	13	19	10	25	13	44	37	24	11	5	4	5	4	225		
翻訳: 単行本	0	0	0	1	0	1	0	3	1	0	0	3	1	0	0	1	0	0	1	12	
翻訳: 章	0	0	0	4	1	0	1	0	1	0	9	0	0	0	0	0	0	0	1	17	
海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
書評	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
参考: シンホ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
参考: 一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
合計(学会発表は除く)	0	0	4	13	10	15	26	12	32	19	65	46	26	13	22	6	7	8	324		
総計	6	21	168	269	200	391	625	641	863	967	1274	1040	205	191	276	115	124	159	7535		

注) データは坂中による一連の「日本におけるパーソルセンターード・アプローチに関する文献リスト」シリーズによった。